

マーケットの動き（2026年7月6日～7月10日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいでした。

政府による拡張的な財政政策への懸念に加え、中東情勢の緊迫化を背景とした原油高によるインフレ懸念が高まったことなどから、新発10年物国債の金利は一時2.9%と約30年ぶりの高水準に達しました。しかし、10日に片山財務相が年金基金による国内金融資産への投資の後押しに言及したことを受けて債券は買い戻され、金利は低下に転じました。

クレジット市場は、堅調に推移しました。

投資環境見通し（2026年7月）

国内長期金利は高止まり

日銀は総裁欠席となった6月の金融政策決定会合で、政策金利の引き上げとともに2027年4月以降の国債買い入れ減額を停止し、月間の買い入れ額を2兆円程度で固定することを決定しました。国内長期金利は政策金利の最終到達点が意識されつつあるものの、「骨太の方針」を巡る財政に対する影響が懸念されることに加えて、インフレに対して金融政策が後手に回るとの警戒感も根強いことから、当面は高止まりが続くとみえています。

	7月10日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	2.78	▲0.00	0.09	0.69	1.29
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	325.00	▲0.01%	▲0.50%	▲3.08%	▲6.05%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202607_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

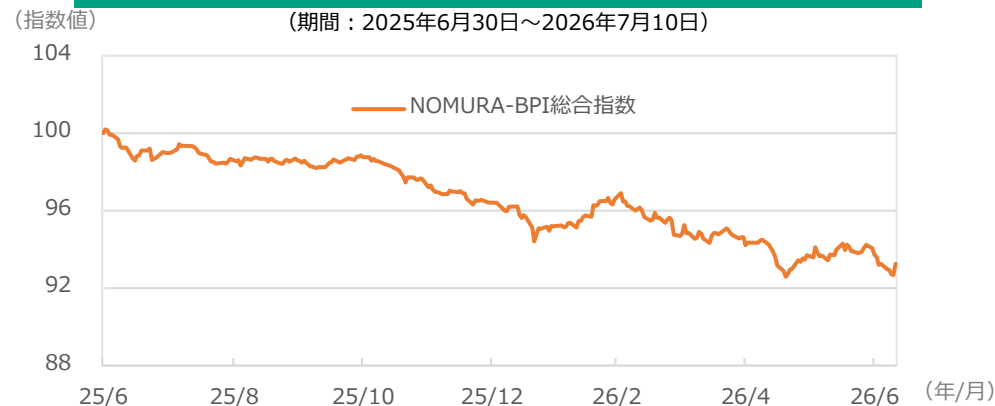
日本国債利回りの推移

（期間：2025年6月30日～2026年7月10日）



NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2025年6月30日～2026年7月10日）



※2025年6月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成